

教育界  
キーマン  
対談

# 小学校の先生に 期待したいこと

国土舘大学  
体育学部こどもスポーツ教育学科教授

澤井 陽介

前文部科学省初等中等教育局視学官  
(社会科教科調査官併任)  
新学習指導要領改訂における事務局  
リーダーの一人

上智大学  
総合人間科学部教育学科教授

奈須 正裕

今回の学習指導要領の改訂において、  
中心的な役割を果たされた。  
総則・評価専門部会メンバー

2020年の小学校新学習指導要領全面実施に向けて

本年度・2018年4月から、2年間の移行措置期間に入りました。

新学習指導要領の改訂の趣旨に照らして、

これからの小学校教育には何が求められているのか、

教育界のキーマンに対談していただきました。

# 1

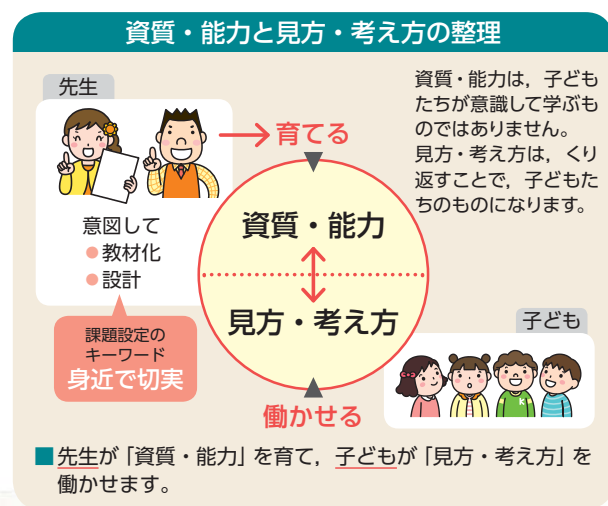
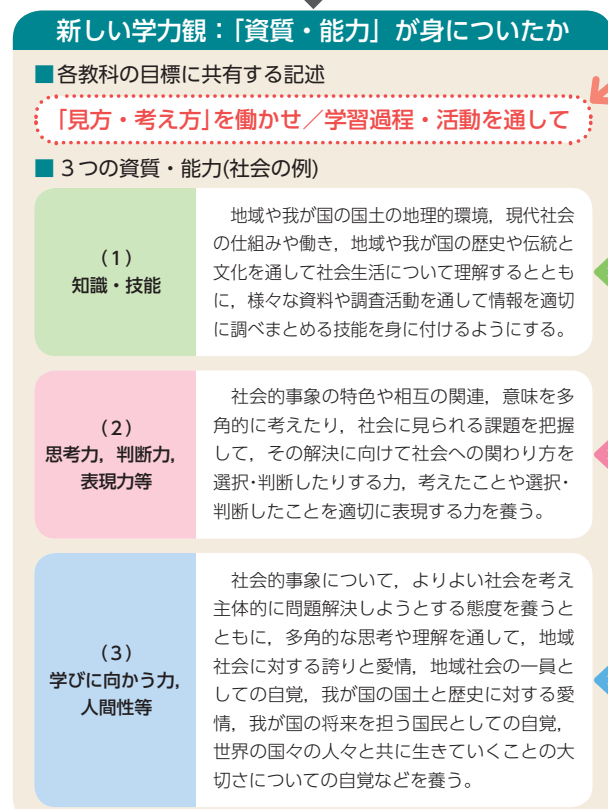
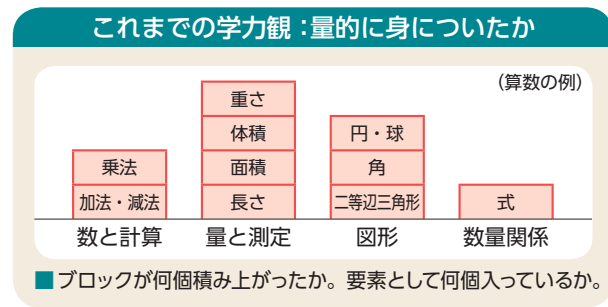
## 新学習指導要領は、どこが新しいのか？

**奈須** 今回いちばん大きく変えたのは、学力観だと思います。昔から何度も「学力観」の話は出ていましたが、決定的にはっきり変えました。それが象徴的なのは、各教科等の目標の記述様式が3つの資質・能力の面からの記述に統一されたことです。

**澤井** 今改訂で、各教科の記述様式が構造的に大整理されて揃ったことは、そこに注目が集まったという点でも意義が大きいと思います。でも、教科の再編成や内容の整理の面では課題も残ったかと思いますがいかがですか？

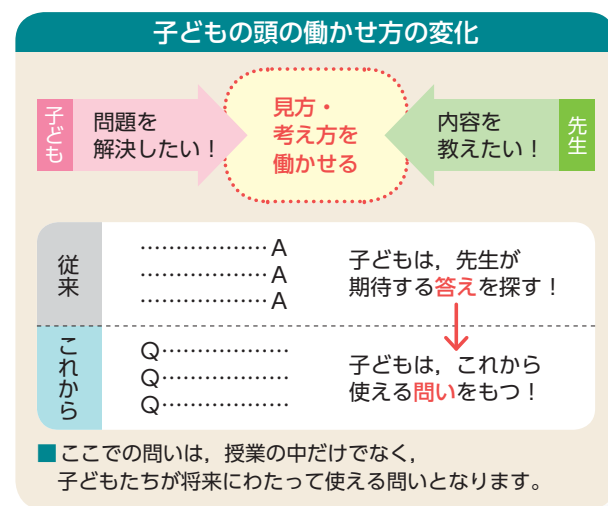
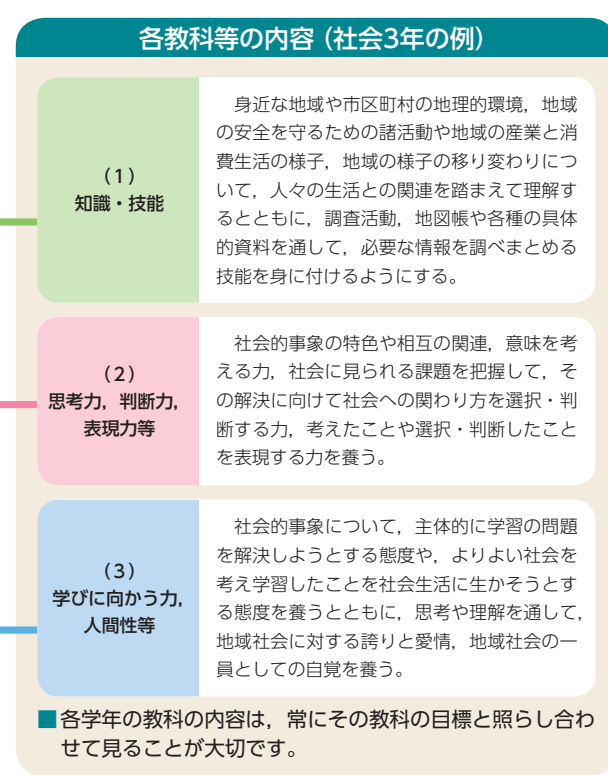
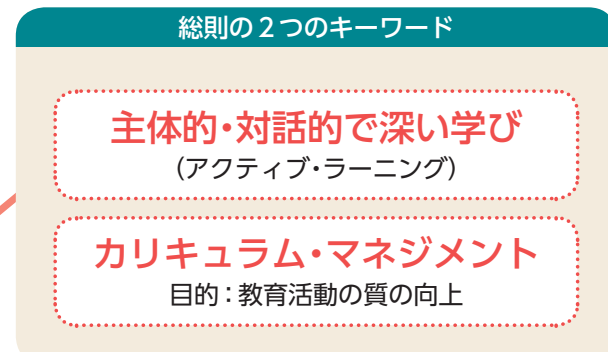
**奈須** 今ある教科の枠組みは、個人的にはこのままでよいと思っています。資質・能力というものは直接的に教えることは不可能で、教科等の内容を通して育成することになります。今改訂で、資質・能力という横ぐしを刺せたことで、全ての教科等を貫く学習モデルをきちんと表す枠組みを作ることができました。

**澤井** 今改訂では、知識・技能が「資質・能力」の1つになったということですね。これはインパクトがありますね。これまで資質・能力という能力・態度的なイメージがありました。今回は知識も「身につけて使えるべき状態としてあるもの」で、これが資質・能力だという考え方の変化は大きいと思います。



# 2

## 各教科等の目標と内容との関係とは？



**澤井** 今改訂では、学習指導要領で示されている3つの資質・能力がバラバラにならないように見方・考え方と過程・活動を目標に組み入れています。3つの資質・能力がバランスよく育つように、その見方・考え方が「縛り」になっているような感じがします。そこに総則にある2つのキーワード、「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」が抑えとして、構造的に効いていると思います。つまり、単元設計などを通して、こういう過程を重視して、3つの資質・能力をバランスよく育てるのがよいというメッセージなのではないかと思います。

また、教科の「内容」にも「知識・技能」や「思考力、判断力、表現力」があります。これをそれぞれの教科の目標(3つの資質・能力)にもある「知識・技能」や「思考力、判断力、表現力」と合わせて見てもいい、その内容でこの資質・能力を育てるのだというように内容と目標が切り離れない仕掛けになっています。現場の先生は往々にして内容を中心に捉えがちかと思いますが、つねに目標(子どもに身につけさせたいこと)に立ち返ることが大切だということですね。



# 3 新学習指導要領をどのように読んでほしいか？

**奈須** 「この教科って何なの？ 何のためにあるの？」ということを再認識してほしいと思います。教科の内容だけを知るのではなく、「この教科をなぜ教えて、子どもにどんな意味があるの？」といったことを考えてほしいのです。教科はその知識を保有しているからという考え方ではなく、その知識について考えたり問題解決をしたり、議論をしたりすることを通してこそ、その教科ならではの考え方か理解の仕方とか、もの見方というのが見えてくるのです。教科ごとの価値や独自性について考えてほしいと思います。

**澤井** 新学習指導要領では、各教科等が3つの資質・能力に整理されたのですから、例えば、思考力、判断力、表現力について見てみるのであれば、教科を一例に並べてみるといいと思います。ご自分の得意な教科をベースに、その他の教科と比べることで、その教科が求めている思考力、判断力、表現力がよく見えてくると思います。各教科等の価値や独自性は、比較することでよく見えてくるのです。あとは小学校学習指導要領解説・各教科編まで読んでもらうと、どんなプロセスで学んでいくのがその教科の学びなのか、つまり「どのように学ぶのか」が書いてある、それを具体化していけばよいということです。



**教科の存立理由の例**（「よだかの星」の学習と児童の反応から）

**【学習問題】**  
よだかが、星になったときの気持ちを考えましょう。

**国語の見方・考え方**  
命をかけて、よだかは星になれて、やっと願いがかなったので、よかったと思う。

**理科の見方・考え方**  
ずっと上がっていくと、空気が薄く呼吸ができなくなり、羽ばたけないよだかは、落ちて死ぬ。

ファンタジックにアプローチする価値 ← **生命** → 科学的にアプローチする価値

## 教科で培われる「学びに向かう力・人間性」の例

**算数の例**

- これは本当に正しいのか。
- 長いものに巻かれない。
- 違うものは違うと主張を貫く。

このために算数の論理を

**理科の例ーガリレオ・ガリレイ**

- 敬虔なカトリック信者だったが、聖書に反することを見つけて悩む。しかし、事実はないがしるにできなかった。

このために理科の論理を

それでも地球は回っています！

■教科で身につけた学力を何のために使うのが大切です。

## 新学習指導要領の教科を並べて比べ、理解を深める

**【思考力、判断力、表現力等】**

国語	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
音楽	音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
図画工作	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
外国語	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

# 4 評価を十分にしていけるための授業づくりを

**澤井** 新学習指導要領の趣旨に沿った評価をしていくときに特に気になるのが、「学びに向かう力、人間性」の評価ですが、教科の授業でいうと、子どもにふり返りを書かせると出てくる気がします。

**奈須** そうですね。今日の学習内容に対する知識や思考で、対象に向かって焦点化したような記述については「知識・技能」や「思考力、判断力、表現力」の中で評価すればよいですね。だけど、学びに向かう力については、対象に対するものではなく、自分の学習に対する知識や思考や情意で、自分の学びという行動を制御するもので見取るのがよいですね。

**澤井** 授業のふり返りでよく見られるのが、ただ単に「今日の学習をふり返りましょう。」「今日の学習をまとめましょう。」というものです。そうして、子どもから出た感想から評価の観点に合う表現を探っていくとしても難しいと思います。意図的に評価を取りにいったほうがよいと思います。そのためにも、ふり返らせる観点を具体的に示す必要がありますね。それに、特に、学びに向かう力、人間性を評価するには、そのふり返りができる授業づくりをしないとダメですね。まさに子どもたちが主体の問題解決学習を実現してこそ評価ができるのです。

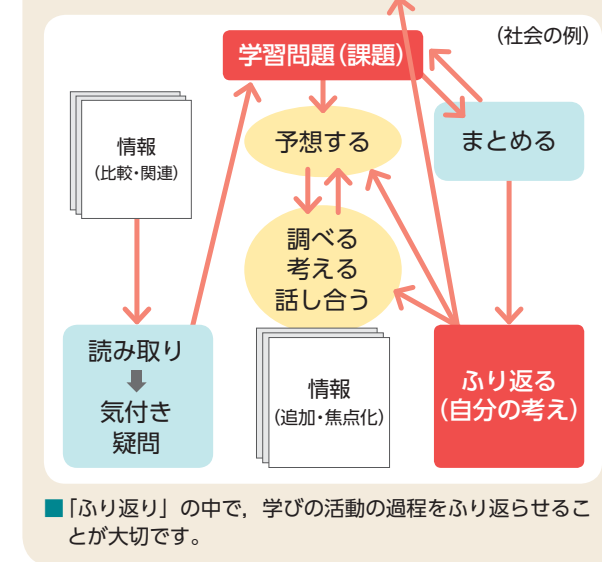


**子どものふり返りを評価する視点**

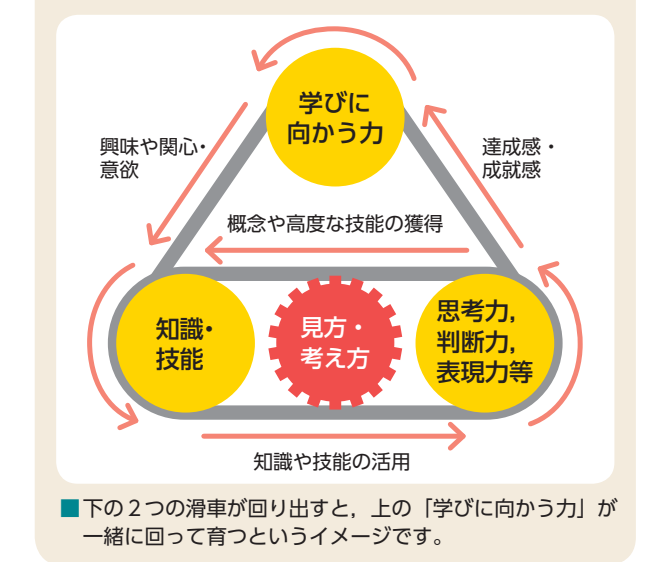
**【学習した対象〈学習内容〉に対して】の知識・思考**  
(例) 今日、伊能忠敬の人物像が分かった。  
→ (1) 知識・技能  
→ (2) 思考力、判断力、表現力

**【自分〈学習行動・活動〉に対して】の知識・思考・情意**  
(例) 今日の話し合いは面白かったけど、途中で混乱したから残念だった。次はもっといい話し合いがやりたい。  
→ (3) 学びに向かう力、人間性

## 学びの活動の過程をふり返ることができる授業



## 新学習指導要領の学びのイメージ



# 小学校の先生に 期待したいこと

「単元」を通して  
深い学びを!

何よりも  
「授業」を大切に  
してほしい!

**奈須** 今回、単元という概念を復活させました。1時間1時間の活動ではなくて、単元というプロセスを通じた授業改善をお願いできればと思います。単元というのは内容（コンテンツ）があるとして、その内容を子どもの経験にどうしていくか、すなわち内容を経験化したものです。教えるべきコンテンツが子どもたちにどういった意味のある学習経験として、子どもの内に組織化されていくかという見通しや計画のことです。それはつまり、内容がある方法に落とし込んでいくわけですから、単元は内容と方法の結節点にあります。



**澤井** 今回の学習指導要領では、教科の本質が整理されています。だから、特に若い先生方は、ここで再スタートする気持ちで、教科や学習指導要領を勉強されるとよいと思います。そして、得意な教科を

窓口に新しい授業づくりにチャレンジしてほしいと思います。

授業を研究するか授業に情熱をかけるというのは、何といても先生の本分です。授業を軸にやっている先生は、やっぱり、校内や保護者、子どもとの関係がうまくいきます。逆に言うと、授業がうまくいかないと連動式にガタガタと崩れて、対応に時間を

とられるということがあります。どれだけ「働き方改革」と言われても、授業をしっかりとつくっていくということだけは、軸においてやっていくべきだと思います。

そのためにも校内研究がすごく大事だと思います。今回整理された3つの資質・能力をネタに、自分の得意な教科の目線で、校内の仲間と「授業を見て、授業を語る」機会をたくさんってほしいと思います。学習指導要領を読み込んでも授業は変わりません。授業を変えるためには、理論や理屈だけではなく、「授業を見て、語る」ことなのだと思います。

内容 単元 方法

内容と方法は分離しないと同時に、子どもの側に立脚して内容論と方法論を有機的に結びつけていくのが単元論です。そこを十分に意識した授業づくりをしていていただきたいと思います。